

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成26年度実績—



平成27年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象 「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	7
学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	13
自らの命を守るための防災教育の推進	18
いじめを許さない学校づくりの推進	20
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、 特別支援教育の推進	22
健やかな体を培う体育・健康教育の充実	24
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会を提供し、自らの能力向上を図る（学びの連続性）	25
市民が行う生涯学習の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る	30
国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める	33
市民が行う文化活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る	34
文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する	35
市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る	37
3 学識経験者の意見	39
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	41

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取り組みの方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

- 永井 伸幸 氏 【専門領域】 視覚障害学
【研究テーマ】 視覚障害
【現在】 宮城教育大学准教授（特別支援教育講座所属）

- 越中 康治 氏 【専門領域】 発達心理学
【研究テーマ】 社会性・道徳性の発達
【現在】 宮城教育大学准教授（学校教育講座所属）

(3) 点検及び評価の対象

平成26年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

平成26年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造をめざし、次代を担う子どもたちの創造性、自主性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術
- 楽しさと活力ある生涯スポーツ

教育の基本目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の基本目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 確かな学力を育成する
- 豊かな心を育む
- 心身の健康と体力の向上を図る

めざす『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の基本目標

- 「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するため、35人を標準とする学級編制の実施 ② 中学校における少人数によるきめ細かな学習指導の推進 ③ 個性を伸ばし児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置 ④ 学校教育施設等の適正規模、適正配置を図るための環境整備の推進 ⑤ 幼稚園の3年保育の実現 ⑥ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑦ 幼児教育の振興を図るため、保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 経済的理由により就学困難な児童生徒に対する学用品の援助と就学機会の確保 ⑨ 特別支援教育の普及奨励を図るため、保護者の経済的負担の軽減 ⑩ 通学における利便と安全確保を図るため、遠距離通学の幼児児童生徒への通学支援 ⑪ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施と結果の公表 ⑫ 豊かな自然環境や小規模の特徴を生かした小規模特認校制度の展開
------------------------------	---

【確かな学力を育成する】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ② ICT（インターネットなどの情報通信技術）を活用した授業により学力向上を図るためのタブレットパソコンの配備 ③ 落ち着いた学習環境と思いやりのある人間関係づくりのため、アンケート調査とその分析・活用 ④ 家庭学習のポイント等を学ぶため、保護者や生徒を対象とした家庭学習講座の実施 ⑤ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上、自主的学習の習慣化を図るための学府くりはら塾の実施 ⑥ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用する力を身に付けさせるための学習会の実施 ⑦ 幼稚園、小学校、中学校の教職員を対象とした学力向上に関する講演会の実施 ⑧ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ⑨ 全国学力・学習状況調査の結果の分析とその活用 ⑩ 児童生徒の学力の状況を把握し課題を解決するため、市独自の標準学力テストの実施 ⑪ 国際理解を深め、英語教育を充実するためのALT（外国語指導助手）の配置と英語活用事業の実施 ⑫ 国際的視野をもたせ、児童生徒の英会話力を向上させるための事業の実施 ⑬ コミュニケーション能力の素地を養い外国語活動を充実するための研修会の実施 ⑭ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促し地域理解をめざした初任者研修会の実施
<p>自らの命を守るための防災教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 危険を予知し回避する能力を高めるため、防災教育の推進と各校での実践の共有化 ② 防災の基礎となる基礎的な知識に関する指導の充実 ③ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化

【豊かな心を育む】

いじめを許さない学校づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 いじめ問題について教職員間の共通理解を図り、学校全体で組織的に取り組む体制の整備 ② いじめ等の問題解決のため、警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめや不登校などの問題行動の未然防止、早期発見・早期対応につながるような支援の工夫
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進 ② 幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成及び連携事業の実施 ③ 豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業の実施 ④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざし、基礎学力を身に付けるための支援 ⑤ 児童生徒の成長に係る記録を取りまとめ、教育や医療福祉に生かすための支援計画等の作成 ⑥ 特別支援コーディネーターのスキルアップと校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 児童生徒の教育的ニーズを把握し、生活や学習の困難を改善するための適切な支援体制の構築

【心身の健康と体力向上を図る】

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 望ましい食習慣の確立とバランスの取れた食生活や食育の推進 ③ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ④ 幼児児童生徒及び教職員の健康の促進のための健診事業
---------------------	---

社会教育の具体的施策

【「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習の推進と学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】	【幼児期（芽生え期）】 <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	【少年・青年期（成長期）】 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 少年教育推進体制の整備 ③ 協働教育事業の推進 ④ 青年団体及びサークルの育成、支援 ⑤ 青年教育推進体制の整備 ⑥ 学習、交流活動の機会と場の提供 ⑦ 団体指導者の育成強化
	【成年期（成熟期）】 <ol style="list-style-type: none"> ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備

	<ul style="list-style-type: none"> ③ 指導者の育成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいつくり事業の展開 ⑥ 子育て支援の充実
--	--

市民が行う生涯学習活動の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑦ 社会教育関係職員の研修機会の充実と専門職員の養成
--------------------------------------	---

国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 学校、地域と連携した交流活動の推進 ④ 国際交流関係団体との連携強化
------------------------------	--

【地域に根ざした芸術文化の推進】

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 伝統文化の継承と普及活動への支援 ⑤ 文化施設の設備充実と環境整備
-------------------------------------	--

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の文化財の調査、保存活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実
---------------------------	--

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 学校との連携強化
-------------------------------------	--

点検及び評価項目一覧（平成26年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、 生きる力を育む学校	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「少人数指導事業」	C
			2 「学校活性化プラン事業」	B
			3 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	B
			4 「幼保一元化推進事業」	B
			5 「幼稚園預かり保育事業」	B
			6 「スクールバス事業」	A
	確かな学力を育成する	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	7 「教育研究センター事業」	B
			8 「Q-U（学級生活満足度尺度調査）」	B
			9 「学力向上支援事業」	B
			10 「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
			11 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	B
			12 「防災主任研修会」	B
			13 「地域と連携した避難訓練の推進」	B
	豊かな心を育む	いじめを許さない学校づくりの推進	14 「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」	B
			15 「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」	B
		一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	16 「志教育支援事業」	B
			17 「教育相談員」「適応指導教室事業」	B
	心身の健康と体力の向上を図る	健やかな体を培う体育・健康教育の充実	18 「全国体力・運動能力調査の結果分析」	B
共に助け合い潤いに満ちた地域社会	「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習の推進と学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】	19 「家庭教育学級」	B
			20 「ブックスタート事業」	B
			21 「ジュニアリーダー育成事業・派遣事業」	B
			22 「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」	B
			23 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」	B
		市民が行う生涯学習の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る	24 「学習まつり・芸能祭・文化祭」	A
			25 「図書館まつり」	B
国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める	26 「学校支援ボランティア事業」「家庭教育サポーター学習会」	B		
	27 「青空大使派遣事業」	B		
地域の特性を生かした かおり高い文化芸術	地域に根ざした文化芸術の推進	市民が行う文化活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る	28 「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチほか各種芸術鑑賞会」	B
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する	29 「埋蔵文化財発掘調査事業」	B
			30 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
楽しさと活力ある生涯スポーツ	心身の健康保持増進とスポーツの推進	市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る	31 「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」	B
			32 「宮城ヘルシー2014ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	B

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

8「Q-U（学級生活満足度尺度）調査（注1）」

（注1）心理学者である河村茂雄氏が開発した、観察や面接による主観的な児童生徒理解を補う、児童生徒個々及び学級の状態を客観的にとらえる質問紙調査である。標準化された心理テストであることから、全国平均値が分かり、それと比較・検討することができる。

事業概要

Q-U調査を実施し、子どもたちの学校での満足度（尺度）を把握することにより、いじめ、不登校等の問題行動を事前に把握し、指導することで、やる気のある学級集団づくり、居心地のよい学級集団づくりを目指す。また、年2回実施し、満足度の向上が図られたかどうかを比較することにより、これまでの指導の成果や今後の課題を把握し、さらに改善を図る。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

市内全ての小・中学校で年2回（5月・11月）実施した。平成26年度は各学校の調査結果の取りまとめと検証を行った。

小・中学校ともに全国平均に比べ、学級生活満足群（学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童生徒）の割合が多く、学級生活不満足群（耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い児童生徒）の割合が少ない結果だった。さらに、5月と11月の結果の比較では、学級生活満足群の割合が増え、学級生活不満足群の割合が減った学年がほとんどであった。各学校・学級で5月の調査結果を生かした取り組みが行われたことがうかがえる。

平成26年度 Q-U調査の結果

		学級生活満足群(注2)	侵害行為認知群(注3)	非承認群(注4)	学級生活不満足群(注5)	要支援群(注6)	計
小学校(1回目)	実人数(人)	1,446	410	684	488	141	3,169
	割合	46%	13%	22%	15%	4%	100%
小学校(2回目)	実人数(人)	1,678	344	618	434	102	3,176
	割合	53%	11%	19%	14%	3%	100%
小学校(差)	実人数(人)	232	△ 66	△ 66	△ 54	△ 39	7
	割合	7%	△ 2%	△ 2%	△ 2%	△ 1%	0%
中学校(1回目)	実人数(人)	932	227	259	282	89	1,789
	割合	52%	13%	14%	16%	5%	100%
中学校(2回目)	実人数(人)	972	246	208	214	79	1,719
	割合	57%	14%	12%	12%	5%	100%
中学校(差)	実人数(人)	40	19	△ 51	△ 68	△ 10	△ 70
	割合	4%	2%	△ 2%	△ 3%	△ 0%	0

(注2)自分の居場所があり意欲的に生活している児童生徒群
(注3)いじめ等を受けているか、他とトラブルがある可能性が高い児童生徒群
(注4)いじめ等は受けていないが、認められることが少ない児童生徒群
(注5)いじめ等を受けているか強い不安傾向をもつ児童生徒群
(注6)耐えられないいじめ等を受けているか、非常に強い不安傾向をもつ児童生徒群

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

調査結果の活用についての理解を深め、学習指導の改善に役立てる学級経営を行う必要がある。



Q-U調査の分析結果に基づく教職員向けの研修会を実施し、調査結果の効果的な活用を図る。

5 学識経験者の意見

学校、学級における児童生徒の様子を客観的に捉え、その結果に基づいて改善に取り組もうとする試みは評価できる。5月の結果を踏まえ、実際にどのような取り組みを行ったことが学級生活の改善につながったのかが大事なことであり、これを把握し、今後へ活かす取り組みを進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課
1 目的				
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
2「学校活性化プラン事業」				
事業概要				
通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置し、児童の学校生活を支援すると共に、個々のケースに応じた、よりきめ細やかな学習指導や生活指導を行う。				
3 平成26年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置したことにより、児童生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があった。 また、当該児童だけでなく、クラス全体が落ち着いた環境で学習ができるようになった。				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校 23人 築館小学校1人 宮野小学校1人 富野小学校2人 若柳小学校4人 栗駒小学校2人 栗駒南小学校2人 高清水小学校2人 一迫小学校3人 瀬峰小学校1人 鶯沢小学校2人 金成小学校1人 志波姫小学校2人 ○ 中学校 8人 築館中学校2人 若柳中学校1人 栗駒中学校1人 高清水中学校1人 栗原西中学校1人 瀬峰中学校2人 				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針				
支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にあり、支援の程度も多様化しているため、個々の児童・生徒のケースに応じたきめ細やかな支援が求められている。		➡	学校のニーズを把握するため、これまで以上に連携を密にしながら、情報の共有を図り、個々のケースに応じた支援に努めていく。	
5 学識経験者の意見				
成果にあるように、特別な支援を必要とする児童生徒への支援は、クラス全体の環境の改善につながる。つまり、学級、学校への支援として捉える必要があるということである。児童生徒への個別の支援を充実させるには、実践の蓄積と共有が重要になってくるので具体的な方策を検討することが望まれる。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造						
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課						
1 目的										
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。										
2 具体的事業										
施策を構成する事業										
3 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」										
事業概要										
少子化の影響で園児・児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいる。小中学校における社会性を身につけるための環境と教育内容の質的な充実を図るため、学校再編により適正規模を確保するとともに、より良い教育環境の整備と円滑な学校運営のため、将来的な園児・児童生徒数の推移などを考慮して適正配置に努める。										
3 平成26年度の取り組みと自己評価										
取り組みと成果										
栗原市立学校再編計画に基づき、保護者を含む地域住民の合意が整った地区ごとに、新学校の開校に向けて準備を進めてきた。築館地区は築館小学校、玉沢小学校、宮野小学校、富野小学校の4つの小学校があり、それぞれの保護者を対象に説明会等を進めてきた。富野小学校は、児童数の減少により複式学級が増えたことなどから、保護者及び地域住民から早期再編の要望があったため、他の小学校に先行して築館小学校との再編を行った										
平成27年4月開校										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>学校名</th> <th>再編対象校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築館地区</td> <td>築館小学校</td> <td>築館小学校・富野小学校</td> </tr> </tbody> </table>					地区名	学校名	再編対象校	築館地区	築館小学校	築館小学校・富野小学校
地区名	学校名	再編対象校								
築館地区	築館小学校	築館小学校・富野小学校								
評価										
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">B</td> <td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</td> </tr> <tr> <td>B 概ね計画どおり目標が達成された。</td> </tr> <tr> <td>C 課題があり、改善を要する。</td> </tr> </table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。	B 概ね計画どおり目標が達成された。	C 課題があり、改善を要する。		
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。									
	B 概ね計画どおり目標が達成された。									
	C 課題があり、改善を要する。									
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針										
<table border="0"> <tr> <td style="width: 50%;">学校再編計画後期計画（H26～H31）を推進するため、保護者説明会等を行い、保護者と地域の合意形成を図っていく必要がある。</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➡</td> <td>既に保護者合意を受けた玉沢小学校については、平成29年度からの築館小学校との再編に向けて、地域合意及びその後の手続きを推進して行く。</td> </tr> </table>					学校再編計画後期計画（H26～H31）を推進するため、保護者説明会等を行い、保護者と地域の合意形成を図っていく必要がある。	➡	既に保護者合意を受けた玉沢小学校については、平成29年度からの築館小学校との再編に向けて、地域合意及びその後の手続きを推進して行く。			
学校再編計画後期計画（H26～H31）を推進するため、保護者説明会等を行い、保護者と地域の合意形成を図っていく必要がある。	➡	既に保護者合意を受けた玉沢小学校については、平成29年度からの築館小学校との再編に向けて、地域合意及びその後の手続きを推進して行く。								
5 学識経験者の意見										
児童生徒数の減少による学校の統合・再編は避けることができない課題であるが、地域住民や保護者の意向を無視して進めることは適切ではない。今回、地域や保護者との説明会等を通して円滑な統合が実施できたことは評価できる。今後も地域や保護者の合意を得ながら再編を進めて行くことが期待される。										

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課

1 目的

次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

4 「幼保一元化推進事業（注1）」

（注1）幼保一元化…3歳～5歳児において、幼稚園児と保育所児の区分なく混合のクラス編制を行い、教育・保育を施す取組。

事業概要

同じ年齢児の幼稚園・保育所といった別々の環境を是正するため、混合クラスによる一元的な教育・保育を行う。
また、市内保育年数の格差を是正するため、全ての幼稚園での3年保育を実施する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

これまで1年保育だった築館地区の4つ幼稚園を1つに再編し、新「築館幼稚園」として平成27年4月からのスタートするため、施設の整備を行った。また、栗駒地区、志波姫地区についても、平成28年4月の開園を目標に、それぞれの建設工事に着手した。更に、幼保一元化による課題を踏まえ、「学府くりはら幼児教育構想」を策定し、今後の栗原市の幼児教育の方向性を示すこととした。

平成26年度実施事業

地区	整備の進捗状況	備考
築館地区	建設工事完了	H27.4開園（保育年数3年）
栗駒地区	設計及び建設工事着手	H28.4開園予定（保育年数3年）
志波姫地区	設計及び建設工事着手	H28.4開園予定（保育年数3年）

地区別幼稚園状況

平成27年3月末現在

	幼稚園名	保育年数	備考		幼稚園名	保育年数	備考
1	築館地区	1年	単独幼稚園	6	鶯沢地区	3年	幼保一元化施設
2	栗駒地区	2年	単独幼稚園	7	金成地区	3年	幼保一元化施設
3	高清水地区	3年	幼保一元化施設	8	志波姫地区	3年	単独幼稚園
4	一迫地区	2年	単独幼稚園	9	花山地区	3年	単独幼稚園
5	瀬峰地区	2年	単独幼稚園				

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

3歳から5歳児を幼稚園児とする「学府くりはら幼児教育構想」の具現化に向けた、ハード・ソフト両面からの整備を進める必要がある。



施設整備にあわせて、保育時間の延長等ソフト面での体制整備を進めていく。

5 学識経験者の意見

幼保一元化推進事業の好例となることが期待される「学府くりはら幼児教育構想」の具現化へ向けて、26年度にハード面での整備を進めることができた。今後は、28年度からの実施へ向けて、それらの施設を活用した実質的な運営体制の構築、保育環境の整備を進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課

1 目的

次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

5 「幼稚園預かり保育事業」

事業概要

幼稚園の教育時間終了後及び長期休業時において、保育に欠ける園児を対象に、市立7幼稚園で預かり保育を実施する。また、保護者の急病等により一時的に保育に欠ける園児を対象に、一時預かり保育を行う。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加し、利用者ニーズも多岐にわたってきている。平成26年度は、瀬峰幼稚園で預かり保育を実施したことにより市内すべての幼稚園での預かり保育が実現した。また、預かり保育の定員をなくし、サービスの向上を図った。

平成27年3月1日現在

	預かり保育実施幼稚園	3歳児	4歳児	5歳児	合計	一時預かり延べ人数※
1	築館			55人	55人	8人
2	岩ヶ崎		23人	20人	43人	14人
3	尾松		15人	12人	27人	48人
4	一迫		24人	28人	52人	17人
5	瀬峰		5人	6人	11人	79人
6	ふたば	39人	35人	39人	113人	138人
7	花山	0人	1人	5人	6人	8人
	合計	39人	103人	165人	307人	312人

※一時預かり延べ人数は、一時預かりを利用した延べ日数とする。

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

「学府くりはら幼児教育構想」に基づき、保育所と同様のサービス提供を行うこととするため、預かり保育の開設時間等の見直しが必要である。



保育所と同様のサービスを行うために、開設時間の拡大などについて検討を行っていく。

5 学識経験者の意見

幼稚園は、地域における幼児期の教育のセンターとして機能することが求められる。預かり保育もその一環として取り組むことが求められており、市内全ての幼稚園で実施できたことは高く評価できる。今後、どのようなサービスが提供可能か、その量・質を充実させる検討を進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課

1 目的

次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

6 「スクールバス事業」

事業概要

市内の幼・小中学校に在籍する園児、児童、生徒の遠距離通学に際し、通学における安全確保と通学支援としてスクールバスを運行する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

平成26年度は、学校再編に伴い、金成小中学校において13ルート（10台）のスクールバス運行を開始した。

また、平成27年度の築館地区の小学校と幼稚園の再編に向けて、新たにスクールバスの運行を行うための事前準備を行った。

■ ルート数・運行台数(学校別)

平成26年4月1日現在

学校名	ルート数	運行台数	
		業者所有	市所有
築館中学校	3ルート	3台	
若柳小学校(若柳よしの幼稚園)	12ルート	6台	4台
若柳中学校	2ルート	2台	
栗駒小学校 (岩ヶ崎幼稚園・鳥矢崎幼稚園)	6ルート	3台	2台
栗駒南小学校(尾松幼稚園)	5ルート	3台	
栗駒中学校	6ルート	6台	
一迫小学校(一迫幼稚園)	8ルート	8台	
栗原西中学校	4ルート	4台	
瀬峰小学校(瀬峰幼稚園)	4ルート	2台	
鶯沢小学校(鶯沢幼稚園)	3ルート	1台	3台
金成小学校、金成中学校(金成幼稚園)	13ルート	6台	4台
志波姫小学校(ふたば幼稚園)	4ルート		2台
花山小学校(花山幼稚園)	2ルート	1台	1台
小計	72ルート	45台	16台
合計		61台	

※ 幼稚園分については、基本的には小学校分と同一の車両となります。

評価

A

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。

B 概ね計画どおり目標が達成された。

C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

学校再編計画の推進にあわせて、新たなルートの整備を計画的に進める必要がある。



栗駒地区の幼稚園の再編に伴うスクールバスの体制整備を進める。

5 学識経験者の意見

学校の統合・再編は、通学距離の長距離化を伴うことになる。この問題を解決するには、スクールバス運行体制の充実が必要になる。26年度の取り組みでは、市内で72ルートの運行を達成しており、この問題に対応できていると言える。今後も学校の再編は進むため、それに伴う整備を進める必要がある。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課	
1 目的					
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業					
7「教育研究センター事業」					
事業概要					
教育研究センターを設置して、幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の研修、充実した教育相談の拠点として、また、教職員の交流の場として、次代を担う人づくり＝「学府くりはら」の着実な実現を図る。					
3 平成26年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
平成26年9月1日に開所式を行い、本格的に事業を開始した。教職員研修を中心に事業を行い、教職員の資質の向上に繋がった。今後は、全国及び県の学力学習状況調査の結果を踏まえ、教職員の資質向上に向けた研修会を開催していきたい。					
平成26年度 研修会実績					
研修名		講師	開催日	対象	参加人数
授業づくり研修	言語活動の充実	指導主事(栗原地域事務所)	10月1日	小中	18
	英語科～小中連携をふまえて	指導主事(栗原地域事務所)	11月6日	小中	19
	Q-U活用研修会	日本教育カウンセラー協会 Q U学級経営スーパーバイザー	9月2日	小中	30
	算数・数学科担当教員研修会	指導主事(センター及び学校教育課)	10月1日	小中	21
職務別研修	管理職研修会	客員教授(センター)	9月1日	幼小中	47
	初任者・市費教諭(1年目)研修会	教育部次長(学校教育担当)、指導主事(センター)	8月11日	小中	18
	市立幼稚園長研修会	所長、市内先輩園長、特任教授(センター)	8月21日	幼	9
	幼稚園主任・学年主任研修会	指導主事(センター)、特任教授(センター)	9月11日	幼小中	23
	市費少人数指導担当教諭・非常勤教諭研修会	指導主事(センター)	9月22日	小中	6
	学校補助員研修会	金成支援学校地域支援部3名	10月8日	幼小中	51
市立幼稚園教員研修会(市幼研との共催)	指導主事(栗原地域事務所)	10月14日	幼	66	
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。				
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針					
全国及び県の学力・学習状況調査の結果から、特に算数・数学の学力の向上に向けた取り組みが必要である。			➡	算数・数学研修会をはじめとする学力向上に向けた授業づくりの研修会の開催等を通じて、小学校、中学校における学力向上策の支援を行う。	
5 学識経験者の意見					
「学府くりはら」実現へ向けて、市の教育の拠点を整備できたことは評価できる。まずは研修の拠点として教職員の資質向上に努めることが必要であるが、最終的には、センターの事業として掲げている、市の教育の6拠点としての機能が十全に機能するよう取り組んで行くことが必要であろう。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

8「Q-U（学級生活満足度尺度）調査（注1）」

（注1）心理学者である河村茂雄氏が開発した、観察や面接による主観的な児童生徒理解を補う、児童生徒個々及び学級の状態を客観的にとらえる質問紙調査である。標準化された心理テストであることから、全国平均値が分かり、それと比較・検討することができる。

事業概要

Q-U調査を実施し、子どもたちの学校での満足度（尺度）を把握することにより、いじめ、不登校等の問題行動を事前に把握し、指導することで、やる気のある学級集団づくり、居心地のよい学級集団づくりを目指す。また、年2回実施し、満足度の向上が図られたかどうかを比較することにより、これまでの指導の成果や今後の課題を把握し、さらに改善を図る。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

市内全ての小・中学校で年2回（5月・11月）実施した。平成26年度は各学校の調査結果の取りまとめと検証を行った。

小・中学校ともに全国平均に比べ、学級生活満足群（学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童生徒）の割合が多く、学級生活不満足群（耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い児童生徒）の割合が少ない結果だった。さらに、5月と11月の結果の比較では、学級生活満足群の割合が増え、学級生活不満足群の割合が減った学年がほとんどであった。各学校・学級で5月の調査結果を生かした取り組みが行われたことがうかがえる。

平成26年度 Q-U調査の結果

		学級生活満足群(注2)	侵害行為認知群(注3)	非承認群(注4)	学級生活不満足群(注5)	要支援群(注6)	計
小学校 (1回目)	実人数(人)	1,446	410	684	488	141	3,169
	割合	46%	13%	22%	15%	4%	100%
小学校 (2回目)	実人数(人)	1,678	344	618	434	102	3,176
	割合	53%	11%	19%	14%	3%	100%
小学校 (差)	実人数(人)	232	△ 66	△ 66	△ 54	△ 39	7
	割合	7%	△ 2%	△ 2%	△ 2%	△ 1%	0%
中学校 (1回目)	実人数(人)	932	227	259	282	89	1,789
	割合	52%	13%	14%	16%	5%	100%
中学校 (2回目)	実人数(人)	972	246	208	214	79	1,719
	割合	57%	14%	12%	12%	5%	100%
中学校 (差)	実人数(人)	40	19	△ 51	△ 68	△ 10	△ 70
	割合	4%	2%	△ 2%	△ 3%	△ 0%	0

（注2）自分の居場所があり意欲的に生活している児童生徒群
（注3）いじめ等を受けているか、他とトラブルがある可能性が高い児童生徒群
（注4）いじめ等は受けていないが、認められることが少ない児童生徒群
（注5）いじめ等を受けているか強い不安傾向をもつ児童生徒群
（注6）耐えられないいじめ等を受けているか、非常に強い不安傾向をもつ児童生徒群

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

調査結果の活用についての理解を深め、学習指導の改善に役立てる学級経営を行う必要がある。



Q-U調査の分析結果に基づく教職員向けの研修会を実施し、調査結果の効果的な活用を図る。

5 学識経験者の意見

学校、学級における児童生徒の様子を客観的に捉え、その結果に基づいて改善に取り組もうとする試みは評価できる。5月の結果を踏まえ、実際にどのような取り組みを行ったことが学級生活の改善につながったのかが大事なことであり、これを把握し、今後へ活かす取り組みを進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課
1 目的				
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
9「学力向上支援事業」				
事業概要				
保護者や児童生徒を対象として、家庭学習のポイント等を学ぶための家庭学習会の開催、小・中学校で実施する学習会への支援をい行う。また、児童生徒の学力の状況を把握し、課題を解決するため、栗原市独自の標準学力テストなどを実施し、様々な方面からの学力向上策を検討・推進する。				
3 平成26年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
家庭学習会については、実施時期の調整がつかず開催できなかった。 各学校で実施する長期休業中や放課後などの学習会では、小学校8校、中学校2校に支援を行い、学力向上の一助となった。				
平成26年度 学習会支援事業実績				
小学校	玉沢小学校、若柳小学校、一迫小学校、瀬峰小学校、鶯沢小学校、金成小学校 花山小学校、栗駒小学校			
中学校	築館中学校、瀬峰中学校			
標準学力テストを行った結果、小学校では多くの学年が全国偏差値の平均50を上回っていたが、中学校では、全ての学年で全国偏差値の50に達していない結果となった。どの分野が劣っているのかの分析を行い、その結果を各学校に周知し、分かる授業と学びたくなる授業づくりに活かした。				
平成26年度 標準学力テスト実施状況				
	実施学年	実施教科	実施時期	
1	小学校1・2年生	国語・算数	1月下旬	
2	小学校3年生から6年生	国語・算数・理科・社会		
3	中学校1年生	国語・数学・理科・社会	4月中旬	
4	中学校2年生から3年生	国語・数学・英語・理科・社会		
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針				
標準学力テストの分析結果を活かす対策を講じていく必要がある。		➡	標準学力テストの結果に基づき、分析及び検証を行い、その結果に基づいた改善策について、教職員向けの研修会を実施する。	
5 学識経験者の意見				
偏差値や標準偏差の解釈の仕方について疑問が残る。偏差値による全国での相対的な位置づけにこだわる必要は無く、学習会に参加した児童生徒の学力や学びの姿勢の絶対的な変化を丁寧に追いかけていくことが大切であろう。そのことが結果的に学力テストの結果にも反映されることになる。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

10「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」

事業概要

家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。

また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

「学府くりはら塾」と「学び支援コーディネーター等配置事業」の実施結果は次の通りである。小学校の週末学習会は、会場を3箇所とした結果、参加人数が増えた。また、週末学習会等では、参加したすべての児童が、めあてを達成しようと自主学習や思考力を高めるプリント問題に集中して取り組むことができた。学府くりはら塾に参加した生徒からは、「とても分かりやすかった」「しっかり復習できた」などの意見が多かった。

事業名	学府くりはら塾①	学府くりはら塾②
実施期間	8/16～8/20	12/25～12/27
場所	教育研究センター	教育研究センター
対象者	中1～3年	中3年
参加者	334人	96人
指導者	68人	19人

事業名	放課後学習会	週末学習会①	週末学習会②	夏休み学習会	冬休み学習会
実施期間	6/17～12/15	10/18～12/13	1/31～3/7	8/20～8/22	12/24～12/26
場所	花山小学校	栗原文化会館、 教育研究センター	栗原文化会館、 この花さくや姫プラザ 高清水コミュニティセンター	栗原文化会館、 教育研究センター	栗原文化会館、 教育研究センター
対象者	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年
参加者	204人	582人	415人	468人	390人
指導者	47人	47人	36人	60人	35人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

学府くりはら塾では、交通手段が確保できず参加できない生徒がいるため、その対策を行う必要がある。



多くの生徒が参加できるよう、送迎バスの運行等を検討する。

5 学識経験者の意見

事業として成果が出ていることは、参加者の声からも伺え、今後も活用が期待される。しかし、市としての教育事業は、市内の全ての児童生徒が参加できることが求められるため、大学の協力を得ながら支援者の増員や会場数、機会の増加を検討することも必要であろう。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する																												
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																												
1 目的																																
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業																																
11「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」																																
事業概要																																
<p>小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ALTを活用して、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。</p> <p>JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。</p> <p>(注1) JETプログラム…国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業 (注2) ALT…外国語指導助手（英語や英語活動の授業で日本人教師を補助する外国人教師） (注3) ノンJET…国が行っているJETプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託のこと</p>																																
3 平成26年度の取り組みと自己評価																																
取り組みと成果																																
<p>小学校英語活動については、ノンJETのALT4人と中学校に配置しているJETプログラムのALT3人を活用し、市内全小学校の3・4年生は年間15時間程度、5・6年生については年間35時間の英語活動を実施した。</p> <p>夏季休業中に、小学校3年生以上を対象に日常生活を英語だけで過ごす「英語でチャレンジ」や「英語でキャンプ」を実施した。児童からは、楽しく活動ができ英語が好きになったなど、大変好評だった。</p> <p>留学生との交流事業は、2小学校で実施した。</p> <p>小学校外国語活動に関する研修会では、ALTとのかかわり方や効果的な児童への指示・ほめ方などを学ぶことができた。</p>																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>対象・学年</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語でチャレンジ</td> <td>8月4日(月)</td> <td>この花さくや姫プラザ</td> <td>3～5年</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>英語でキャンプ</td> <td>8月5日(火)～6日(水)</td> <td>国立花山青少年自然の家</td> <td>6年</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">宮城教育大学留学生との交流事業</td> <td rowspan="2">11月19日(水)</td> <td>栗駒小学校</td> <td>5～6年</td> <td>81人</td> </tr> <tr> <td>栗駒南小学校</td> <td>4～6年</td> <td>90人</td> </tr> <tr> <td>外国語担当者研修会</td> <td>12月24日(水)</td> <td>教育研究センター</td> <td>小学校教員</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数	英語でチャレンジ	8月4日(月)	この花さくや姫プラザ	3～5年	35人	英語でキャンプ	8月5日(火)～6日(水)	国立花山青少年自然の家	6年	13人	宮城教育大学留学生との交流事業	11月19日(水)	栗駒小学校	5～6年	81人	栗駒南小学校	4～6年	90人	外国語担当者研修会	12月24日(水)	教育研究センター	小学校教員	12人
事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数																												
英語でチャレンジ	8月4日(月)	この花さくや姫プラザ	3～5年	35人																												
英語でキャンプ	8月5日(火)～6日(水)	国立花山青少年自然の家	6年	13人																												
宮城教育大学留学生との交流事業	11月19日(水)	栗駒小学校	5～6年	81人																												
		栗駒南小学校	4～6年	90人																												
外国語担当者研修会	12月24日(水)	教育研究センター	小学校教員	12人																												
評価																																
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">B</td> <td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</td> </tr> <tr> <td>B 概ね計画どおり目標が達成された。</td> </tr> <tr> <td>C 課題があり、改善を要する。</td> </tr> </table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。	B 概ね計画どおり目標が達成された。	C 課題があり、改善を要する。																								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。																															
	C 課題があり、改善を要する。																															
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																																
<p>「英語でキャンプ」は、自ら英語で会話しようというところまではいかなかったため、英語で伝え合う楽しさを味わえるような活動内容を検討する必要がある。</p> <p style="text-align: center;">➡</p> <p>「英語でキャンプ」の活動内容について、英語で伝え合う場面や進め方について、具体的に計画を立てて進めていく。</p>																																
5 学識経験者の意見																																
英語教育の充実は今後益々求められることとなる。それに対応する試みとして市内、県内の人材を活用して様々なイベントを実施したことは評価できる。「自ら英語を話す」ためには、その必然性が大切である。そのためには、英語を話す必然性のあるイベントを企画することが求められる。																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する																				
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進		担当課 学校教育課																				
1 目的																								
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																								
2 具体的事業																								
施策を構成する事業																								
12「防災主任研修会」																								
事業概要																								
児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との強化のため、すべての小・中学校で防災マニュアルの見直しを行い、それに基づいて児童生徒の安全確保を図る危機管理体制を確立する。また、関係機関との連携を図り、自らの命を守るための防災教育を充実させるために、防災主任を対象として研修会を実施する。																								
3 平成26年度の取り組みと自己評価																								
取り組みと成果																								
<p>栗原市教育委員会として3回（うち1回は県教委の共催）の研修会を実施した。</p> <p>第1回の研修会では、地域における防災教育の教材となり得る「栗駒山麓ジオパーク」についての理解を深め、各校におけるカリキュラム策定の手がかりを得ることができた。</p> <p>第2回の研修会では、文部科学省から講師を招き、最新の防災教育に関する情報を得ることができた。</p> <p>また、宮城県教育委員会が平成26年3月に配付した「みやぎ防災教育副読本」については、その活用方法等の情報提供が十分ではなかった。</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>主催・共催</th> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栗原市教育委員会</td> <td>第1回栗原市防災主任研修会</td> <td>平成26年6月4日（水）</td> <td>講話「栗駒山麓ジオパーク構想と防災教育」 研修「学校防災に係る調査の結果について」他</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>宮城県教育委員会 （栗原市教委）</td> <td>防災主任総合研修会地区別研修</td> <td>平成26年11月4日（火）</td> <td>講話「地域の地形や気候に関する特色と自然災害について」 研究協議「地域の特性に応じた防災教育の展開例の作成」 説明「域内の学校防災体制の現状と課題」</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>栗原市教育委員会</td> <td>第2回栗原市防災主任研修会</td> <td>平成27年1月14日（水）</td> <td>講演「学校防災推進のポイント～地域連携の在り方～」 研究協議「防災教育等の実践事例について」</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table>					主催・共催	事業名	開催日	内容	参加人数	栗原市教育委員会	第1回栗原市防災主任研修会	平成26年6月4日（水）	講話「栗駒山麓ジオパーク構想と防災教育」 研修「学校防災に係る調査の結果について」他	30人	宮城県教育委員会 （栗原市教委）	防災主任総合研修会地区別研修	平成26年11月4日（火）	講話「地域の地形や気候に関する特色と自然災害について」 研究協議「地域の特性に応じた防災教育の展開例の作成」 説明「域内の学校防災体制の現状と課題」	40人	栗原市教育委員会	第2回栗原市防災主任研修会	平成27年1月14日（水）	講演「学校防災推進のポイント～地域連携の在り方～」 研究協議「防災教育等の実践事例について」	28人
主催・共催	事業名	開催日	内容	参加人数																				
栗原市教育委員会	第1回栗原市防災主任研修会	平成26年6月4日（水）	講話「栗駒山麓ジオパーク構想と防災教育」 研修「学校防災に係る調査の結果について」他	30人																				
宮城県教育委員会 （栗原市教委）	防災主任総合研修会地区別研修	平成26年11月4日（火）	講話「地域の地形や気候に関する特色と自然災害について」 研究協議「地域の特性に応じた防災教育の展開例の作成」 説明「域内の学校防災体制の現状と課題」	40人																				
栗原市教育委員会	第2回栗原市防災主任研修会	平成27年1月14日（水）	講演「学校防災推進のポイント～地域連携の在り方～」 研究協議「防災教育等の実践事例について」	28人																				
評価																								
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>																							
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																								
<p>県教委発行の防災副読本の効果的な活用の仕方について、研修の場を設ける必要がある。</p>			➡	<p>副読本の効果的な活用方法について、防災教育推進協力校の授業公開と研究協議の場を通して学べるようにする。</p>																				
5 学識経験者の意見																								
<p>学校の防災体制を確立するには、その中心となる人材の養成が不可欠であり、今後も研修を継続していく必要がある。また、今回は県の資料を活用できなかったとのことであるが、国内には様々な災害の経験を元に作成された多数の防災教育の資源がある。これらをいかに活用していくか検討が必要であろう。</p>																								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進		担当課 学校教育課

1 目的

自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

13「地域と連携した避難訓練の推進」

事業概要

幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図り、適切な訓練を実施するために、防災マニュアルの見直しを行うとともに、関係機関との連携を図りながら、防災担当者を中心として防災教育に取り組む。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

防災マニュアルの見直しを行った幼稚園は、8園（80％）である。
市内全ての幼稚園で、警察署や消防署等の関係機関と連携しての避難訓練や、絵本や紙芝居などを活用しての防災教育に取り組んでいる。
昨年度にも増して、職員の危機管理意識が高まり、園児の防災意識を高めることにもつながった。

連携している関係機関や避難訓練以外の防災教育について

幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育	幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育
築館幼稚園	消防署	絵本・紙芝居の読み聞かせ 消防署見学	瀬峰幼稚園	PTA、小学校	紙芝居や絵本の読み聞かせ 幼小合同の引き渡し訓練
岩ヶ崎幼稚園	消防署	絵本等の読み聞かせ、消防署長講話・ポンプ車見学・放水体験	鶯沢幼稚園	警察署、消防署、保育所	警察官講話、火の用心パレード、DVD視聴、引渡し訓練
尾松幼稚園	PTA、消防署、小学校	絵本等の読み聞かせ、消防署長講話・ポンプ車見学・放水体験、幼小合同引き渡し訓練	金成幼稚園	PTA、警察署、消防署	警察官講話、絵本等の読み聞かせ、DVD視聴、引渡し訓練、消防士講話
高清水幼稚園	PTA、消防署、警察署	絵本等の読み聞かせ、防犯教室(人形劇)、引き渡し訓練、消防士講話	ふたば幼稚園	PTA、消防署、警察署、小学校	消防署見学、警察官講話、引き渡し訓練
一迫幼稚園	PTA、消防署、小学校	絵本等の読み聞かせ、消防士講話・消防車見学、引き渡し訓練	花山幼稚園	警察署、消防署、危機管理室	絵本等の読み聞かせ、煙体験、職員の通報訓練、不審者対応訓練

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

保育所・幼稚園から小学校への学びの連続性において、防災教育の関連性や継続性を高めていくとともに、より効果的、実践的な防災マニュアルの作成を目指し、修正を図っていく必要がある。



保育所や小学校と情報交換をしながら、保育所や小学校と幼稚園との連携が図られるように、避難訓練の内容等を検討していく。また、地域と連携を深める中で防災マニュアルの改善を図っていく。

5 学識経験者の意見

関係機関と連携しての避難訓練は大切であり、実施できていることは評価できる。一方で、実施の有無だけでなく連携の実態の把握も必要であろう。また、実際に行われているように、避難訓練以外の防災教育における、関係機関との連携をもっと深めていく必要があるのではないかと。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む												
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課												
1 目的																
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。																
2 具体的事業																
施策を構成する事業																
14「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」																
事業概要																
いじめの防止、いじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、栗原市いじめ防止基本方針に基づき、学校の内外を問わず、関係者が一体となりいじめ問題を克服する。																
3 平成26年度の取り組みと自己評価																
取り組みと成果																
<p>「いじめ防止基本方針」に基づき、各学校においては、学校におけるいじめの防止等の対策のための組織を設置した。</p> <p>また、教育委員会においては、いじめの防止等に関する機関及び団体の連携を図ることを目的とした「栗原市いじめ問題対策連絡協議会」と、いじめの防止及び早期発見のための対策や調査研究及び検証と、重大事態の調査を目的とした「栗原市いじめ防止対策調査委員会」を設置した。</p> <p>組織を設置したことにより、関係機関との連携が取れ、いじめ防止に関する情報を共有することができた。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td> <td>平成26年12月24日（水）</td> <td>いじめ問題対策連絡協議会について</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td> <td>平成27年2月17日（火）</td> <td>学校現場におけるいじめ問題対策の現状について</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	内容	参加人数	第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成26年12月24日（水）	いじめ問題対策連絡協議会について	19人	第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成27年2月17日（火）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	19人
事業名	開催日	内容	参加人数													
第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成26年12月24日（水）	いじめ問題対策連絡協議会について	19人													
第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成27年2月17日（火）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	19人													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回栗原市いじめ防止対策調査委員会</td> <td>平成27年1月12日（月）</td> <td>いじめ防止対策調査委員会について</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	内容	参加人数	第1回栗原市いじめ防止対策調査委員会	平成27年1月12日（月）	いじめ防止対策調査委員会について	8人				
事業名	開催日	内容	参加人数													
第1回栗原市いじめ防止対策調査委員会	平成27年1月12日（月）	いじめ防止対策調査委員会について	8人													
評価																
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。															
	C 課題があり、改善を要する。															
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																
いじめ防止基本方針に基づき、いじめの防止対策について、更なる推進を図る必要がある。		➡	いじめ防止基本方針に基づいて、関係機関との連携を図りながら、早期発見、早期対応に努めていく。													
5 学識経験者の意見																
市及び学校においていじめ対策が進んだことは評価できる。いじめは無くなることはない問題であり、「いじめがない」ことよりも「いじめに対して適切に対処できる」ことが最も大切である。それゆえ、構築した体制によりいかに適切に対応できたか、実践例（グッド・プラクティス）を蓄積していくことが必要であろう。																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む						
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課						
1 目的										
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。										
2 具体的事業										
施策を構成する事業										
15「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」										
事業概要										
<p>いじめ等の悩みを抱える児童生徒への適切な対応を行うため、「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の相談員を派遣して、別室に登校している児童生徒に学習支援等を行う。</p> <p>また、不登校傾向の児童生徒や家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向けて、その方向性を探っていく。</p>										
3 平成26年度の取り組みと自己評価										
取り組みと成果										
<p>「問題を抱える子ども等の自立支援事業」については、2名の相談員が相談員が関係機関と連携を取りながら、学習支援等を行うことができた。また、困ったときの悩み相談電話の一覧をリーフレットにして、市内小中学校の全家庭に配布した。</p> <p>「スクールソーシャルワーカー活用事業」については、1名のスクールソーシャルワーカーが3校3名の児童生徒と家庭にかかわり、学校復帰に向けて学校と連携しながら支援を行った。また、関係機関と連携し、市内小中学校への訪問や、ケース会議等を通して、各校の実態と課題について把握するとともに、今後の取組について協議を行った。</p>										
相談件数										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問題を抱える子ども等の自立支援事業</td> <td>56回</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー活用事業</td> <td>25回</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	平成26年度	問題を抱える子ども等の自立支援事業	56回	スクールソーシャルワーカー活用事業	25回
事業名	平成26年度									
問題を抱える子ども等の自立支援事業	56回									
スクールソーシャルワーカー活用事業	25回									
評価										
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>									
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針										
不登校傾向や家庭問題が深刻にならないよう、早期の状況把握や情報共有ができる体制づくりが必要である。		➡	スクールソーシャルワーカーの活用方法について周知し、早期に対応できる体制づくりを進めていく。							
5 学識経験者の意見										
2事業で80件を超える相談があり、相談員やスクールソーシャルワーカーの介入効果が得られていることが示された。しかし、すべての支援が必要な児童生徒へ対応できているかは不明な点も多い。人材をいかに活用していくか、そこにどうつなげていくかの体制づくりが必要であろう。										

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む									
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課 学校教育課									
1 目的													
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進を図り、豊かな心の醸成を進める。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
16「志教育支援事業（注1）」 （注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育													
事業概要													
<p>社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについて、自己を見つめ考えさせる志教育の充実と推進を図る。</p> <p>県の「志教育支援事業」の指定を受け、栗駒中学校区における児童・生徒に、次の6つの取組について支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営 (2) 志教育指導計画・参考指導事例集・「みやぎの先人集」に基づいた授業実践とその検証 (3) 家庭及び地域、幼・小・中・高等学校と連携した事業の検討と実施 (4) 志教育推進研修会等の実施 (5) 小・中・高交流発表会、事例発表会の実施 (6) 事例報告書の作成 													
3 平成26年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
栗駒中学校区が県の「志教育支援事業」の指定を受け、1年間にわたる事業の推進を支援した。小学校、中学校、高等学校の連携、地域との連携を特色として取り組み、志の高い児童・生徒の育成に寄与することができた。													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>会議・発表会</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月28日（水） ～ 2月20日（金）</td> <td>第1回～13回 連絡協議会</td> <td>・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>1月15日（木） 13：30～15：30</td> <td>児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）</td> <td>・白鷺太鼓 ・未来へ向かって～職業について調べよう～ ・地域から学ぶ～地域めぐり・田んぼの学校～ ・栗駒ドリームカンパニー ・栗っ子ティーチャー体験 ・決意発表</td> </tr> </tbody> </table>					期 日	会議・発表会	内容	5月28日（水） ～ 2月20日（金）	第1回～13回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成	1月15日（木） 13：30～15：30	児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）	・白鷺太鼓 ・未来へ向かって～職業について調べよう～ ・地域から学ぶ～地域めぐり・田んぼの学校～ ・栗駒ドリームカンパニー ・栗っ子ティーチャー体験 ・決意発表
期 日	会議・発表会	内容											
5月28日（水） ～ 2月20日（金）	第1回～13回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成											
1月15日（木） 13：30～15：30	児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）	・白鷺太鼓 ・未来へ向かって～職業について調べよう～ ・地域から学ぶ～地域めぐり・田んぼの学校～ ・栗駒ドリームカンパニー ・栗っ子ティーチャー体験 ・決意発表											
評 価													
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。												
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針													
これまで3地区が県の研究指定として取組み成果を上げてきた。継続・拡大という本教育の趣旨を重視し、市として支援していく必要がある。		➡	これまで実施してきた学校の取組みを市内中学校に紹介し、各学校の環境や地域性に合わせた志教育を推進するように指導・助言していく。										
5 学識経験者の意見													
県の事業指定に対して十分に答えることができたと言える取り組みであった。栗駒中学校での取り組みをいかに市内の他の中学校へ広げていくかが今後の課題となる。さらに、この事業を経験した生徒がどのように成長していったか追跡調査をすることも、本事業の発展のために必要ではないだろうか。													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課 学校教育課

1 目的

一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進を図り、豊かな心の醸成を進める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

17「教育相談員」「適応指導教室事業」

事業概要

学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができるよう体制整備をする。

また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、さらに、県よりみやぎ心のケア支援員1人(週1回)の派遣を受け、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに登校に向けての支援を行う。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

教育相談員や在学青少年指導員の活動を通して、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握し、適切な支援体制の確立に努めることができた。

また、適応指導教室は、平成26年度から教育研究センター内で実施することとなり、環境の整備が図られた。入所状況については、6中学校から8人の生徒が通級し、在学青少年指導員が指導にあたり、登校回数を増やすことができた。

平成27年3月末現在

事業名	対応日時及び時間	対応状況					
教育相談	毎週火・水・金 8:30~17:15	来庁相談：9件、電話相談：15件、学校訪問相談：38件					
けやき教室	毎週火~金、 9:00~15:30	開所日数	166日				
		通所人数	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	
			正式通所	2人	1人	5人	8人
			体験通所	3人	0人	4人	7人
		合計	5人	1人	9人	15人	

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。

B 概ね計画どおり目標が達成された。

C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

不登校児童生徒の学校復帰については、生活リズム及び学習リズムを整える必要があることから、登校日を学校と同様にする必要がある。



登校日の見直しと指導体制等の調整を行う。

5 学識経験者の意見

前(平成25)年度と比較して来庁相談・電話相談の件数も増加しており、いつでも相談支援ができる体制整備が着実に進められていることが評価できる。適応指導教室事業については、登校日を学校と同様にするを今後の方針とされている点に大いに期待したい。是非ともこれを実現してほしい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る
	具体的施策	健やかな体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
健やかな体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
18「全国体力・運動能力調査の結果分析」				
事業概要				
毎年、全ての小中学校で実施されている「全国体力・運動能力調査」の結果を累積し、継続してその変容を見ながら分析し、成果と課題を明確にした上で、対策を講じていくことによって、児童生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、正しい食習慣や生活習慣を身につけ、生涯にわたって自らの健康を増進しようとする態度を養っていく。				
3 平成26年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
市内各小中学校で実施した体力・運動能力調査について、その結果から課題を明確にして対策を立て取り組んできた。各校における主な対策は以下のとおりである。 ①課題となっている能力を補強するための運動を体育の授業の中で継続的に取り入れる。 ②前年度の調査結果を個人に配布し、自らの課題を意識させるとともに目標と対策を具体的に立てて取り組ませる。 ③取り組んだ結果について、その変容を日常的にとらえられるよう、マラソンカードや水泳カード等の記録できるものを準備したり、校内に結果の変容を掲示して共有し合い、互いに認め励まし合いながら意欲的に取り組めるようにする。 ④業間（業前）運動や日常の遊び中に課題となる能力を補強するような運動に取り組んでいけるように働きかけるとともに、取り組めるような場の設定や環境づくりを行う。 ⑤食育に関する授業にあたっては、給食センターの栄養士等をゲストティーチャーとして招くなどしながら、正しい食生活を送ることが、成長や健康な生活にどれほど大切なのかを各学年に応じて指導する。 これらの取組によって、一人一人の子どもが自分の課題解決に向けた活動に自主的に取り組む姿が見られた。それによって、課題となっていた能力についての改善が見られた。				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針				
課題としては、小中学校とも持久力の不足が挙げられる。また、肥満傾向の割合が高くなっている。		➡	体育の授業に持久力が高まるような運動を計画的に取り入れるとともに、遊び中にも取り入れられるような働きかけを行っていく。	
5 学識経験者の意見				
事業の名称が「結果分析」であるにもかかわらず、取り組みと成果に記されている内容のほとんどが「各校における主な対策」であることが気になる。これまでも指摘されてきた持久力の不足や肥満傾向といった表面的な結果よりもむしろ、授業のあり方や家庭・地域における条件整備、動機づけの問題などに焦点を当てた分析が必要ではないだろうか。				

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】		担当課 社会教育課

1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。

2 具体的事業

施策を構成する事業

19「家庭教育学級」

事業概要

幼児、児童生徒の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級の講師派遣の支援を行う。
家庭教育学級講師リストを作成提供し、開催にあたって指導助言を行い、内容の充実を図る。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

保育所、幼稚園、小学生の保護者を対象に家庭教育学級を実施した。
これまで実施している幼稚園・小学校は毎年開催するようになっている。
平成26年度において、中学校に対し、募集を行ったが、開催の希望がなかった。

平成24年度		平成25年度		平成26年度				
保育所	25回	保育所	2回	19回	保育所	1回	18回	
幼稚園		16回	幼稚園		10回	幼稚園		10回
小学校		9回	小学校		7回	小学校		7回
中学校			中学校			中学校		—
保育所	2,078人	保育所	243人	1,671人	保育所	65人	1,828人	
幼稚園		1,245人	幼稚園		1,025人	幼稚園		1,239人
小学校		833人	小学校		403人	小学校		524人
中学校			中学校			中学校		—
230,000 円		125,000 円		145,000 円				

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

開催の実績がない学校等があるため、事業の周知が必要である。



引き続き、事業内容のPRと、未開催の学校等へ実施例の提供をおこなう。

5 学識経験者の意見

前（平成25）年度の課題を踏まえ、これまで助成対象外であった中学校を対象に含めるとともに、実際に中学校に対しても募集を行ったことは評価できる。開催の希望がなかったことは残念であったが、今後も中学生の保護者のニーズに応じて講習の内容の充実を図るとともに、実施の形態やPRの方法を工夫しつつ取り組みを続けていただきたい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】		担当課 社会教育課
1 目的				
幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
20「ブックスタート事業」				
事業概要				
乳幼児健診時に、乳幼児に本を贈り、本の読み聞かせを行うことによる親子のふれあいや読書の大切さを伝える。				
3 平成26年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
子育て中の保護者・乳児に絵本を渡すことにより、絵本を介して親子のふれあいづくりを支援するとともに、図書館のPRにもなり図書館の利用促進につながった。 また、フォローアップ事業として赤ちゃん向けのおはなし会を実施した。				
ブックスタート事業				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
開催回数	35 回	24 回	24 回	24 回
配付数	470 人	438 人	424 人	368 人
赤ちゃん向けおはなし会				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
開催回数	10 回	12 回	6 回	6 回
参加人数	174 人	247 人	130 人	143 人
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針				
ブックスタート実施後のフォローアップ事業が必要である		➡	3・4ヶ月検診や育児相談の場で、親子に読み聞かせする機会をつくる。	
5 学識経験者の意見				
フォローアップ事業の充実は前（平成25）年度も課題とされていたが、この点について、平成27年度に向けて具体的な方針が提示されている点が評価できる。3・4ヶ月検診や育児相談の場での読み聞かせについて、親子がともに楽しめかつ図書館の利用促進につながる活動となることを期待したい。				

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】		担当課 社会教育課

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

21「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

事業概要

地域少年団体の育成と活動の支援を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を図る。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動へ青少年の参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

ジュニア・リーダーを募集・育成し、子ども会活動等への支援などを行った。指導者としての学習を行うことにより、次世代を担うリーダーとして資質向上が図られた。活動地区の場を広げることは難しかった。

ジュニア・リーダー登録地区、人数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考
地区	7 地区	7 地区	7 地区	7 地区	全10地区
人数	62 人	58 人	67 人	48 人	

認定状況

	初級	中級	上級	合計
人数	19人	11人	5人	35人

事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署
JL初級研修会	0/11(土)～10/12(日)	中学1年～高校3年JL	17人	社会教育課
JL派遣事業	年間(随時)	市内子ども会等	950人	各教育センター
築館JL人形劇祭り	12/23(火)	築館・志波姫地区市民	90人	築館・志波姫教育センター
JL育成事業	9月～3月(12回)	市内JL	14人	一迫・花山教育センター
ダンス講習会	3/22(日)	市内JL	14人	社会教育課

※JL＝ジュニア・リーダー

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダーの登録者数が減ってきている。また、子ども会への派遣等、活動の場をつくる必要がある。




子ども会育成会やシニアリーダーの事業に参加し、ジュニアリーダーの役割と活動の場をつくる。

5 学識経験者の意見

前(平成25)年度と同様に登録者数と活動の場の減少が課題として挙げられているが、数の増減よりもむしろ、活動の質の維持・向上を重視して取り組みを継続してほしい。前回の報告書にも記したが、ジュニアリーダー自身がどのような活動をしたいと考えているのかを引き出し、新たな主体的な活動の創出につなげることなどはできないだろうか。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																								
	具体的施策	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】		担当課 社会教育課																																								
1 目的																																												
<p>青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。</p>																																												
2 具体的事業																																												
施策を構成する事業																																												
22「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」																																												
事業概要																																												
<p>青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体と共催による事業を実施する。</p>																																												
3 平成26年度の取り組みと自己評価																																												
取り組みと成果																																												
<p>各教育センター、各施設で青少年対象事業を開催した。 各種事業を開催することにより、青少年の成長過程での情操教育の一端となった。 さまざまな遊びや体験活動・人とのかかわりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養うことが出来た。</p>																																												
青少年対象の事業（※主な事業を抜粋）																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日・期間</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>連携団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>少年体験教室事業</td> <td>7月～11月（3回）</td> <td>築館・志波姫地区小学生</td> <td>16人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子どもの本展示会</td> <td>7/26（土）～8/3（日）</td> <td>市内市民</td> <td>51人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>あさる野市・栗原市友好親善交流事業</td> <td>8/4（月）～8/6（水）</td> <td>師活動交流：瀬峰中、生徒会交流：市内中学校</td> <td>39人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>せみねっ子「ハロウィンパーティ」</td> <td>10/12（日）</td> <td>瀬峰小学校4～6年</td> <td>20人</td> <td>せみねっ子を育てる会 せみねジュニア・リーダー</td> </tr> <tr> <td>栗駒子どもまつり</td> <td>7月～8月</td> <td>市内小学生</td> <td>20人</td> <td>青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会</td> </tr> <tr> <td>小・中学生新春書初め</td> <td>1/10（土）</td> <td>一迫・花山地区小・中学生</td> <td>40人</td> <td>青少年のための栗原市民会議一迫地区会</td> </tr> <tr> <td>かんなりクリスマスこども祭</td> <td>12/21（日）</td> <td>金成地区市民</td> <td>114人</td> <td>金成地区子ども会育成会</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日・期間	対象	参加人数	連携団体	少年体験教室事業	7月～11月（3回）	築館・志波姫地区小学生	16人		子どもの本展示会	7/26（土）～8/3（日）	市内市民	51人		あさる野市・栗原市友好親善交流事業	8/4（月）～8/6（水）	師活動交流：瀬峰中、生徒会交流：市内中学校	39人		せみねっ子「ハロウィンパーティ」	10/12（日）	瀬峰小学校4～6年	20人	せみねっ子を育てる会 せみねジュニア・リーダー	栗駒子どもまつり	7月～8月	市内小学生	20人	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会	小・中学生新春書初め	1/10（土）	一迫・花山地区小・中学生	40人	青少年のための栗原市民会議一迫地区会	かんなりクリスマスこども祭	12/21（日）	金成地区市民	114人	金成地区子ども会育成会
事業名	期日・期間	対象	参加人数	連携団体																																								
少年体験教室事業	7月～11月（3回）	築館・志波姫地区小学生	16人																																									
子どもの本展示会	7/26（土）～8/3（日）	市内市民	51人																																									
あさる野市・栗原市友好親善交流事業	8/4（月）～8/6（水）	師活動交流：瀬峰中、生徒会交流：市内中学校	39人																																									
せみねっ子「ハロウィンパーティ」	10/12（日）	瀬峰小学校4～6年	20人	せみねっ子を育てる会 せみねジュニア・リーダー																																								
栗駒子どもまつり	7月～8月	市内小学生	20人	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会																																								
小・中学生新春書初め	1/10（土）	一迫・花山地区小・中学生	40人	青少年のための栗原市民会議一迫地区会																																								
かんなりクリスマスこども祭	12/21（日）	金成地区市民	114人	金成地区子ども会育成会																																								
評価																																												
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。</p>																																											
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																																												
青少年育成団体への支援のため、シニアリーダーの活用を図る。		➡	各種事業にシニアリーダーの活用を検討する。																																									
5 学識経験者の意見																																												
<p>前（平成25）年度の報告書では、マンネリ化してきている本事業について、魅力ある活動プログラム開発のため、多様なニーズへの柔軟な対応、地域の指導者の発掘、ジュニアリーダーの活用が方針として掲げられていたが、具体的にどのような取り組みがなされたのだろうか。また、次年度はシニアリーダーの活用を検討することとなった経緯を知りたい。</p>																																												

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																			
	具体的施策	生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】		担当課 社会教育課																																			
1 目的																																							
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。																																							
2 具体的事業																																							
施策を構成する事業																																							
23 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」																																							
事業概要																																							
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。																																							
3 平成26年度の取り組みと自己評価																																							
取り組みと成果																																							
ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センター、各施設ごとに実施した。各種事業を実施することにより、生涯各期に要請された学習機会について提供した。																																							
主な事業を抜粋																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日・期間</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>担当部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園芸講座</td> <td>7月～11月</td> <td>一迫・花山地区市民（60歳以上）</td> <td>11人</td> <td>一迫・花山教育センター</td> </tr> <tr> <td>女性教室（全2回）</td> <td>6/14（土）</td> <td>市民一般</td> <td>60人</td> <td>若柳・金成教育センター</td> </tr> <tr> <td>栗駒イチゴもぎ取りDEノルディック・ハイク</td> <td>10/18(金)～10/19(土)</td> <td>市民一般</td> <td>53人</td> <td>栗駒・鶯沢教育センター</td> </tr> <tr> <td>ワード・デジカメ講習会</td> <td>9/28（日）</td> <td>市民一般</td> <td>9人</td> <td>視聴覚センター</td> </tr> <tr> <td>せみねりフレッシュカレッジ</td> <td>6月～3月</td> <td>瀬峰地区市民（60歳以上）</td> <td>94人</td> <td>瀬峰・高清水教育センター</td> </tr> <tr> <td>高齢講座「シニアセミナー」</td> <td>6月～12月（5回）</td> <td>築館・志波姫地区市民（60歳以上）</td> <td>50人</td> <td>築館・志波姫教育センター</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署	園芸講座	7月～11月	一迫・花山地区市民（60歳以上）	11人	一迫・花山教育センター	女性教室（全2回）	6/14（土）	市民一般	60人	若柳・金成教育センター	栗駒イチゴもぎ取りDEノルディック・ハイク	10/18(金)～10/19(土)	市民一般	53人	栗駒・鶯沢教育センター	ワード・デジカメ講習会	9/28（日）	市民一般	9人	視聴覚センター	せみねりフレッシュカレッジ	6月～3月	瀬峰地区市民（60歳以上）	94人	瀬峰・高清水教育センター	高齢講座「シニアセミナー」	6月～12月（5回）	築館・志波姫地区市民（60歳以上）	50人	築館・志波姫教育センター
事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署																																			
園芸講座	7月～11月	一迫・花山地区市民（60歳以上）	11人	一迫・花山教育センター																																			
女性教室（全2回）	6/14（土）	市民一般	60人	若柳・金成教育センター																																			
栗駒イチゴもぎ取りDEノルディック・ハイク	10/18(金)～10/19(土)	市民一般	53人	栗駒・鶯沢教育センター																																			
ワード・デジカメ講習会	9/28（日）	市民一般	9人	視聴覚センター																																			
せみねりフレッシュカレッジ	6月～3月	瀬峰地区市民（60歳以上）	94人	瀬峰・高清水教育センター																																			
高齢講座「シニアセミナー」	6月～12月（5回）	築館・志波姫地区市民（60歳以上）	50人	築館・志波姫教育センター																																			
評価																																							
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																																						
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																																							
ライフスタイルが異なる中での、世代を越えた事業実施の検討が必要である。		➡	幅広い年齢層が参加できるよう、開催日を見直す。																																				
5 学識経験者の意見																																							
世代を超えた事業実施の検討が継続的な課題となっている本事業について、前（平成25）年度の報告書では、平成26年度の方針として、各地区での実情に応じた学習機会の提供を図るためにアンケート等を実施することが挙げられていた。この点について、どのような取り組みがなされたのか、その成果を報告に含めていただきたかった。																																							

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																													
	具体的施策	市民が行う生涯学習活動の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る。		担当課 社会教育課																																													
1 目的																																																	
市民がいつでも、どこでも、だれでも生涯学習が展開できるように社会教育施設及び社会教育環境を整備し、活動の充実を図っていく。また地域課題解決に向けた学習に取り組み、活動の自立化を促す。地域活動に参画する地域のリーダーの育成を図るため、各種社会教育事業を展開するとともに、地区コミュニティ組織等との連携を図る。																																																	
2 具体的事業																																																	
施策を構成する事業																																																	
24「学習まつり・芸能祭・文化祭」																																																	
事業概要																																																	
社会教育関係団体等との連携による学習会、芸術祭等を開催する。																																																	
3 平成26年度の取り組みと自己評価																																																	
取り組みと成果																																																	
社会教育団体が主催する事業と共催開催し、市民団体が主となる自主運営が図れるよう活動支援に努めた。また、各団体への自立支援に努めた結果、今年度は各団体の自主運営に移行した事業が増加した。																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日・期間</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>主催・共催者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>少年の主張栗原大会</td> <td>7/15 (火)</td> <td>中学生</td> <td>350人</td> <td>市民会議</td> </tr> <tr> <td>志波姫地区芸能文化祭</td> <td>12/2 (日)</td> <td>志波姫地区市民</td> <td>300人</td> <td>志波姫地区芸術文化協会</td> </tr> <tr> <td>瀬峰文化祭</td> <td>11/2 (日)～11/3 (月)</td> <td>瀬峰地区市民</td> <td>400人</td> <td>瀬峰文化協会</td> </tr> <tr> <td>小学生絵画・書道作品展 保育所児・園児たちの作品展</td> <td>11/8 (土)～11/9 (日)</td> <td>金成地区小学生 保育所児・幼稚園児</td> <td>650人</td> <td>金成芸術文化協会 市民会議金成支部</td> </tr> <tr> <td>築館地区文化芸術祭</td> <td>11/15 (土)～16 (日)</td> <td>築館地区市民</td> <td>800人</td> <td>築館文化芸術協会</td> </tr> <tr> <td>高清水生涯学習まつり・芸能祭</td> <td>11/21 (土)～11/24 (日)</td> <td>高清水地区市民</td> <td>400人</td> <td>高清水生涯学習まつり実行委員会</td> </tr> <tr> <td>築館各種女性団体「女性の集い」</td> <td>1/21 (水)</td> <td>築館各種女性団体 (10団体)</td> <td>150人</td> <td>築館各種女性団体連絡協議会</td> </tr> <tr> <td>青少年健全育成のつどい</td> <td>2/25 (水)</td> <td>築館地区市民</td> <td>30人</td> <td>市民会議築館地区会</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日・期間	対象	参加人数	主催・共催者	少年の主張栗原大会	7/15 (火)	中学生	350人	市民会議	志波姫地区芸能文化祭	12/2 (日)	志波姫地区市民	300人	志波姫地区芸術文化協会	瀬峰文化祭	11/2 (日)～11/3 (月)	瀬峰地区市民	400人	瀬峰文化協会	小学生絵画・書道作品展 保育所児・園児たちの作品展	11/8 (土)～11/9 (日)	金成地区小学生 保育所児・幼稚園児	650人	金成芸術文化協会 市民会議金成支部	築館地区文化芸術祭	11/15 (土)～16 (日)	築館地区市民	800人	築館文化芸術協会	高清水生涯学習まつり・芸能祭	11/21 (土)～11/24 (日)	高清水地区市民	400人	高清水生涯学習まつり実行委員会	築館各種女性団体「女性の集い」	1/21 (水)	築館各種女性団体 (10団体)	150人	築館各種女性団体連絡協議会	青少年健全育成のつどい	2/25 (水)	築館地区市民	30人	市民会議築館地区会
事業名	期日・期間	対象	参加人数	主催・共催者																																													
少年の主張栗原大会	7/15 (火)	中学生	350人	市民会議																																													
志波姫地区芸能文化祭	12/2 (日)	志波姫地区市民	300人	志波姫地区芸術文化協会																																													
瀬峰文化祭	11/2 (日)～11/3 (月)	瀬峰地区市民	400人	瀬峰文化協会																																													
小学生絵画・書道作品展 保育所児・園児たちの作品展	11/8 (土)～11/9 (日)	金成地区小学生 保育所児・幼稚園児	650人	金成芸術文化協会 市民会議金成支部																																													
築館地区文化芸術祭	11/15 (土)～16 (日)	築館地区市民	800人	築館文化芸術協会																																													
高清水生涯学習まつり・芸能祭	11/21 (土)～11/24 (日)	高清水地区市民	400人	高清水生涯学習まつり実行委員会																																													
築館各種女性団体「女性の集い」	1/21 (水)	築館各種女性団体 (10団体)	150人	築館各種女性団体連絡協議会																																													
青少年健全育成のつどい	2/25 (水)	築館地区市民	30人	市民会議築館地区会																																													
評価																																																	
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																																																
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																																																	
なし 																																																	
5 学識経験者の意見																																																	
各団体への自立支援に努めた結果、自主運営に移行した事業が増加した点は評価できる。前年度の報告書に記された課題を踏まえ、団体の魅力を訴える活動や、新たな時代のニーズに合った事業展開等を支援・助言された結果だと思われるが、こうした取り組みの実際についても報告に含めていただきたかった。																																																	

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																		
	具体的施策	市民が行う生涯学習活動の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る。		担当課 社会教育課																		
1 目的																						
読書週間（10月27日～11月9日）にあたり、リサイクル資料の提供、読み聞かせボランティアによるおはなし会等を開催し、市民の読書活動を推進する。また、書庫や移動図書館車の案内等により、図書館利用の拡大を図る。																						
2 具体的事業																						
施策を構成する事業																						
25「図書館まつり」																						
事業概要																						
すべての世代の人たちに読書の楽しさを伝えるため、各種ボランティア団体と連携し、本に関連する様々なイベントを実施した。																						
3 平成26年度の取り組みと自己評価																						
取り組みと成果																						
毎年恒例の事業として市民へ周知されているように感じた。子ども大人も楽しめるイベントを開催することによって、普段図書館を利用しない方にも図書館を身近に感じてもらう良い機会となった。																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期間</th> <th>対象者</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館まつり</td> <td>10月25日（土）・26日（日）</td> <td>市民一般</td> <td>1,153人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期間	対象者	入館者数	図書館まつり	10月25日（土）・26日（日）	市民一般	1,153人										
事業名	期間	対象者	入館者数																			
図書館まつり	10月25日（土）・26日（日）	市民一般	1,153人																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本のリサイクルフェア</td> <td>2,071冊</td> </tr> <tr> <td>「ぐりとぐら」に変身しよう！</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>図書館たんけんたい</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>おはなし会</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>人形劇を楽しもう</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>映画会</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>ジャンボジェンガに挑戦しよう</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>マジックショー</td> <td>53人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※リサイクルフェアは、提供していただいた図書希望者に無償で配布。</p> <p>※ジェンガとは、同サイズの直方体のパーツを組んで作ったタワーから崩さないように注意しながら片手で一片を抜き取り、最上段に積みあげる動作を交代で行うゲーム。</p>					内容	参加人数	本のリサイクルフェア	2,071冊	「ぐりとぐら」に変身しよう！	52人	図書館たんけんたい	41人	おはなし会	29人	人形劇を楽しもう	51人	映画会	23人	ジャンボジェンガに挑戦しよう	26人	マジックショー	53人
内容	参加人数																					
本のリサイクルフェア	2,071冊																					
「ぐりとぐら」に変身しよう！	52人																					
図書館たんけんたい	41人																					
おはなし会	29人																					
人形劇を楽しもう	51人																					
映画会	23人																					
ジャンボジェンガに挑戦しよう	26人																					
マジックショー	53人																					
評価																						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																					
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																						
内容がマンネリ化しているため、見直しの必要がある。		➡	図書館利用者に対しアンケート調査を行い、変化のある内容で事業を実施する。																			
5 学識経験者の意見																						
マンネリ化している本事業について、平成27年度は利用者へのアンケートを実施し、内容を変えようとして点に大いに期待したい。また、「ブックスタート事業」や「ジュニアリーダー育成事業・派遣事業」などの他の事業との連携の可能性についても検討いただきたい。																						

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	市民が行う生涯学習活動の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る。		担当課 社会教育課

1 目的
 学校・地域・家庭が協働して地域の子どもたちを育む仕組みづくりをすることを通して、地域・家庭の教育力の向上と・よりよい地域教育・家庭教育、及び地域づくりを積極的に取り組む住民の育成を図る。

2 具体的事業
 施策を構成する事業
26「学校支援ボランティア事業」「家庭教育サポーター学習会」

事業概要
 地域・家庭・学校が協働して地域の子どもたちを地域で育てる仕組みづくりを推進するため、地域人材の活用を積極的に行える体制づくりや、ボランティア育成の支援を行う。
 学校支援ボランティア事業…指定校を選定し、学校と地域の橋渡し役担うコーディネーターを配置し、地域と学校をつなぐ体制づくりを図る
 家庭教育サポーター学習会…身近な地域で、子育て中の親等に対し、家庭教育について気軽に相談に乗ったりアドバイスを行うサポーターへ学習の機会を与え「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを図る。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果


地域、学校、家庭を繋ぐ地域コーディネーター向けの研修会を実施。ボランティアの実践発表会を行い、活動状況を市民に周知する場を作った。
 保護者や社会教育団体も研修会等に参加し、協働教育の理解を深めた。

事業名	期日	対象	研修内容	参加人数 (ボランティア参加人数)
協働教育コーディネーター研修会	8/12 (火)	地域コーディネーター 学校コーディネーター 担当教諭、教育センター職員	・講話「私の思いえがくコーディネーター」 (コーディネーター活動をする上でのポイント注意点) 講師 瀬峰地区地域コーディネーター 菅原博美 氏 ・講話に基づく演習	19人
学校支援ボランティア事業 (推進指定校)	年間	栗原西中学校	/	延べ 47人
		鶯沢小学校		延べ 51人
		高清水小学校		延べ 518人
		若柳小学校		延べ 181人
		栗駒小学校		延べ 610人
学校支援ボランティア事業実践発表会	1/30 (金)	市民一般	実践発表 ・「鶯沢小学校学校支援ボランティア事業について」 鶯沢小学校地域コーディネーター 菅原千恵 氏 ・「学校支援ボランティアに取り組んで思うこと」 若柳小学校ボランティア 千葉章子 氏 講演 「登米市学校・地域教育力向上対策事業 ～未来を担う子供たちのために～」 登米市教育委員会派遣社会教育主事 及川 浩 氏	40人
家庭教育サポーター学習会	3/6 (金)	子育てサポーター養成 講座受講者 市民一般	講演 「今、必要な家庭教育支援」 ～子育てサポーターリーダーの役割 講師 富谷町教育委員会 教育相談員 新沼喜久子 氏	32人

評価

B
 A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
 B 概ね計画どおり目標が達成された。
 C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

「協働教育」について、一般市民の理解が深まっていない状況にある。  研修会の開催にあたっては、参加対象者を拡大するなどにより、協働教育に対する一般市民の理解を促進する。

5 学識経験者の意見

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める。		担当課 社会教育課
1 目的				
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
27「青空大使派遣事業」				
事業概要				
市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施し、現地研修として学校訪問、ファームステイ体験、熱帯雨林やグレートバリアリーフの大自然に触れる				
3 平成26年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>中学生20人が参加し、国内研修を6回、海外研修を5泊6日で実施した。 この事業が市の事業として定着し、これまでの参加団員が、交流の思い出や事業の良さを後輩に直接伝えている。</p> <p>国内研修では日常会話はもちろんのこと、日本や栗原のことを英語で伝える学習をし、現地学生やホストファミリーと交流を図っているが、「学習したプレゼンの英語が伝わって、本当に嬉しかった」という感想を述べる団員がいる一方で、「なかなか英語が伝わらず、とても悔しかった。たくさん勉強して将来に必ず生かしたい」と失敗を克服し自分の将来に向けた目標を見出す団員もいるなど、今後、長期的な成果もアンケート等で明らかにする必要がある。また、過去の参加団員が例年成人式実行委員を担うなど、長期的にも成果を得ている。</p>				
研修内容				
	日時	研修内容		
結団式 第1回	5/27(火) (保護者参加)	・事業概要説明 ・旅行説明		
第2回	6/7(土)	・班別研修 ・学校交流時プレゼン準備 ・英会話レッスン他		
第3回	6/21(土)	・班別研修 ・学校交流時プレゼン紹介文の英文確認、発音練習他		
第4回	7/5(土)	・ホームステイ体験談講話 ・英会話レッスン他		
第5回	7/18(金) (保護者参加)	・旅行説明(最終確認、ファームステイ先について) ・プレゼンリハーサル他		
現地研修	7/27(日)～ 8/1(金)	・現地校生徒との交流(授業体験等) ・ファームステイ ・アボリジニ文化体験他		
第6回 解団式	8/11(日)	・研修報告(班ごとでの発表作品作成等)		
評価				
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>			
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針				
研修の成果を生かす機会の提供等が必要である。		➡	学校での体験発表の場を設定してもらえよう関係機関への働きかけを行う。	
5 学識経験者の意見				
継続的な取り組みによって市の事業として定着し、過去の参加団員が例年成人式実行委員を担うなど、間接的・長期的な成果も得られている点は評価できる。今後の方針に掲げられた学校での体験発表の場の設定も研修成果を生かす機会となるであろう。なお、報告書中の団員の感想について、前年度の報告書と同一と見受けられる抜粋がある点が気になる。				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	地域に根ざした文化芸術の推進
	具体的施策	市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。		担当課 社会教育課

1 目的
市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業
施策を構成する事業
28「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ(注1)ほか各種芸術鑑賞会」
(注1)音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。

事業概要
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価
取り組みと成果

優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることができ、地域文化の創造に努められた。

社会教育課実施事業 (13事業) 参加人数 8,442人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
第77回河北美術展栗原展	5/20～25	1,771人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	11/13	889人
小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	7/2～3	1,799人	美術ワークショップ「アスカオリのまぐろパックワークショップ」	10/15	67人
仙台フィルマイタウンコンサートin栗原	7/19	407人		11/26	
青少年劇場小公演	9/1～2	402人	けやきステージ2014 澤敦&織田準一ジョイントコンサート	11/29	111人
ジャズコラボ栗原2014	10/5	662人	心にきざむ文化講演会「講師 笹野 高史 氏」	12/14	849人
宮城県巡回小劇場	9/4～5	538人	音楽アウトリーチ事業「白石光隆ピアノアウトリーチコンサート」	2/23～24	313人
大垣市との俳句交流事業	9/24～25	34人	第8回栗原市写真展	2/28～3/8	600人

栗原文化会館実施事業 (6事業) 参加人数 3,126人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
宮城水彩展「栗原展」	6/27～7/5	513人	見てけらいん美術展	9/5～14	503人
がんぼろう栗原 さだまさしシンフォニックコンサートツアー2014	7/14	968人	栗原書道展	10/11～19	264人
栗原市工芸展	8/2～10	445人	栗原市美術展	11/5～12	433人

若柳総合文化センター実施事業 (5事業) 参加人数 2,558人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
親子芸術鑑賞会「シンデレラ&ミニコンサート」	7/4	488人	劇団四季ファミリーミュージカル「ふたりのロッテ」	11/8	528人
ダンスフェスティバル2014	8/31	581人	春の祭典「舞踊と民謡」流派の集い	3/8	575人
わかやなぎ音楽祭	10/26	386人			

評価
B
A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
B 概ね計画どおり目標が達成された。
C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針
例年実施している事業以外に、合併10周年記念事業を実施するため、実施事業の内容精査、開催日程の調整が必要となる。 ➡ 合併10周年事業を、新しい分野での開催内容で検討する。

5 学識経験者の意見
市民のニーズの多様化に対応した事業等を選定する必要があるという平成25年度の課題を受けて、平成26年度は市民からの意見を参考に事業選定を行うことを方針とされていたが、この方針は今年度の取り組みにどのように反映されたのであろうか。平成27年度については、合併10周年記念事業と調整の上で、さらなる内容の充実を図っていただきたい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する		担当課 文化財保護課

1 目的

先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

29「埋蔵文化財発掘調査事業」

事業概要

埋蔵文化財発掘調査を行い、遺跡の解明し、遺跡の保存又は記録保存を行う。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

埋蔵文化財包蔵地における開発行為等に伴い、保存できるものに関しては保存し、その事業によって失われてしまう埋蔵文化財に関しては記録保存を行い、これらの調査成果を公表することにより、市民の埋蔵文化財に対する理解を得ることができた。また、周知の埋蔵文化財包蔵地及び隣接地において道路整備・市設置型合併処理浄化槽等の公共工事や民間の宅地・工場造成、集合住宅、個人住宅等の開発事業に伴い、発掘届(一般)、発掘通知(公共機関)を受理し、県教育委員会の指示のもと、関係課や事業主と「遺跡と開発事業の係わり」について、協議や指導等を行い、工事立会や確認調査及び事前調査を行った。また、伊治城跡発掘調査事業(国庫補助)は、第6次5ヵ年計画の1年目の発掘調査を実施した。

○協議等件数

単位：件

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
埋蔵文化財協議	15	9	12	10	7	11	7	5	8	5	10	3	102
発掘届	6	6	6	3	3	5	4	5	2	4	5	5	54
発掘通知	6	3	3	4	7	5	3	5	3	5	1	2	47
工事立会報告	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6
史跡現状変更	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4

○埋蔵文化財確認調査等の主な実績

遺跡名	地区名	開発目的	調査内容	調査期間	備考
袖山遺跡	高清水	工場造成	確認調査	5月～6月	民間
下萩沢遺跡	築館	店舗建設	確認調査	6月～7月 11月～12月	民間
源光遺跡	築館	宅地分譲	確認調査	8月	栗原市
仰ヶ返り地蔵前遺跡	高清水	介護施設建設	確認調査	8月～9月	民間
覚満寺遺跡	高清水	市道改良工事	確認調査	9月～10月	栗原市

○市内遺跡発掘調査事業(国庫補助事業)

・史跡伊治城跡：築館城生野地藏堂、唐崎地内約300㎡、調査期間11月～1月

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

大規模開発に伴う発掘調査に時間を要したため、国庫補助による伊治城跡発掘調査事業の実施時期が遅くなった。



開発事業者等と連絡を密にして、全体の事業を見渡し、計画的かつ効率的に発掘調査を実施する。

5 学識経験者の意見

貴重な文化遺産の保存・保護のための活動であり、これまで同様に計画的かつ効率的に進めていきたい。また、前回報告書の学識経験者の意見においても指摘がなされていたが、市民の文化財愛護意識の高揚を図る観点からは、近隣の中学校や高等学校等との連携なども検討できるのではないだろうか。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進									
	具体的施策	文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する		担当課 文化財保護課									
1 目的													
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
30「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」													
事業概要													
伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての活動を支援並びに史跡・天然記念物等保存活動に対する支援策として、補助金を交付する。													
3 平成26年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
<p>伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人並びに史跡・天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担を軽減し、伝承活動を支援することができた。</p> <p>補助金の交付状況</p> <table border="1"> <tr> <td>史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金</td> <td>1団体2個人</td> <td>262,000円</td> </tr> <tr> <td>無形文化財保存伝承に対する補助金</td> <td>1個人</td> <td>95,000円</td> </tr> <tr> <td>無形民俗文化財保存団体に対する補助金</td> <td>13団体</td> <td>531,050円</td> </tr> </table>					史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金	1団体2個人	262,000円	無形文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円	無形民俗文化財保存団体に対する補助金	13団体	531,050円
史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金	1団体2個人	262,000円											
無形文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円											
無形民俗文化財保存団体に対する補助金	13団体	531,050円											
評価													
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>												
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針													
旧町村からの引継ぎで補助金の額および交付団体を選定して支出しているの、平準化を図る必要がある。		➡	各団体の実情等の聴き取り調査等により現状を把握し、必要かつ効果的な支援を行っていく。										
5 学識経験者の意見													
補助金の額および交付団体の選定に関して「平準化を図る」とあるが、この表現が適当なものか検討いただきたい。その上で、各団体の実情等を把握した上で「必要かつ効果的な支援」を行うことができるよう、聞き取り調査などによる現状の把握に努めていただきたい。													

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進																											
	具体的施策	市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る。		担当課 社会教育課																											
1 目的																															
<p>スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。</p> <p>（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。</p>																															
2 具体的事業																															
施策を構成する事業																															
31「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」																															
事業概要																															
市民の健康増進・体力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携し、スポーツ大会等を開催する。																															
3 平成26年度の取り組みと自己評価																															
取り組みと成果																															
<p>○スポーツ大会等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種大会等を開催することにより、参加者の健康増進及び体力向上が図られた。 次年度に向けて、公益財団法人日本陸上競技連盟からハーフマラソン及び10kmの公認コースの申請を行った。 																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業名</th> <th rowspan="2">期日</th> <th rowspan="2">対象者</th> <th colspan="2">参加者数</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生陸上競技交流大会</td> <td>6/8</td> <td>市内小学校4年生以上</td> <td>394人</td> <td>451人</td> </tr> <tr> <td>くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会</td> <td>8/2～3</td> <td>県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生</td> <td>727人</td> <td>602人</td> </tr> <tr> <td>栗原市民マラソン大会</td> <td>11/8</td> <td>小学生以上</td> <td>485人</td> <td>471人</td> </tr> <tr> <td>体力・運動能力調査</td> <td>6月～10月</td> <td>市内在住20歳～79歳</td> <td>9人</td> <td>58人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	対象者	参加者数		H26	H25	小学生陸上競技交流大会	6/8	市内小学校4年生以上	394人	451人	くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	8/2～3	県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生	727人	602人	栗原市民マラソン大会	11/8	小学生以上	485人	471人	体力・運動能力調査	6月～10月	市内在住20歳～79歳	9人	58人
事業名	期日	対象者	参加者数																												
			H26	H25																											
小学生陸上競技交流大会	6/8	市内小学校4年生以上	394人	451人																											
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	8/2～3	県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生	727人	602人																											
栗原市民マラソン大会	11/8	小学生以上	485人	471人																											
体力・運動能力調査	6月～10月	市内在住20歳～79歳	9人	58人																											
評価																															
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>																														
4 平成27年度に向けた課題・今後の方針																															
「楽・楽・楽スポーツ」のうち、「みる」楽しさと「ささえる」楽しさを体験する機会が少ない。		➡	合併10周年を記念して、ハーフマラソン大会を開催し、観客やボランティアとして参加できる機会の提供に努める。																												
5 学識経験者の意見																															
<p>前回報告書の学識経験者の意見においても指摘がなされていたが、各種大会等により「参加者の健康増進及び体力向上が図られた」という記述の根拠が不明である。また、このこととも関連するかもしれないが、「体力・運動能力調査」の参加者数が平成24年度の57名、平成25年度の58名から大幅に減少している点も気になる。</p>																															

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る。		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

32「宮城ヘルシー2014ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」

事業概要

子どもから高齢者まで多くの方々が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。

3 平成26年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに、生涯スポーツの振興を図ることができた。

【開催日】8月24日(日)

【会場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒

【種目・参加人員】本大会・予選会の参加者総数 2,602人

大会参加者数

種目	チーム数	参加人員
ソフトボール男子	9	233人
家庭バレーボール	9	190人
家庭バレーボール(シニア)	6	133人
ペタンク(シニア)	9	67人
ペタンク(フリー)	9	66人
グラウンドゴルフ	9	89人
健康づくりコーナー		38人
合計	51	816人

地区予選会参加者数

種目	参加人員
ソフトボール男子	655人
家庭バレーボール	480人
家庭バレーボール(シニア)	86人
ペタンク(シニア)	91人
ペタンク(フリー)	51人
グラウンドゴルフ	423人
合計	1,786人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成27年度に向けた課題・今後の方針

若年層が参加できるような種目が必要である。



小学生と保護者を対象としたニュースポーツ体験コーナーを企画し、参加者の増加を図る。

5 学識経験者の意見

子どもから高齢者まで多くの方々が気軽に楽しく参加できるよう種目を創意工夫されたことによって、予選会・本大会をあわせて多数の参加があったことは評価できる。また、平成27年度は、小学生と保護者などの若年層を対象としたコーナーを企画されている点に大いに期待したい。

3 学識経験者からの意見（総評）

（永井 伸幸氏）

（越中 康治氏）

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」（1～6）

少人数指導や支援員の配置による学級への支援が充実してきていることは高く評価できる。また、少子化に伴う学校再編が、全国的に早急に対応が求められている課題である中、地域や保護者との合意形成を図りながら再編を進める一方で、遠距離通学に対応するべくスクールバスのルートの整備を同時に進めており、円滑な再編を進めることが期待できる。さらに、幼保一元化の推進や幼稚園預かり保育の推進により、就学前の幼児の教育体制が整備されてきており、「学ぶ土台作り」が進んでいくと期待される。

「学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」（7～11）

栗原市教育研究センターの開所により、市の教育の拠点を整備できた。今後はセンターが有効に機能するよう適切な運営が求められる。Q-U 調査のように、定期的に児童生徒の実態を把握する試みは有意義なことである。このような調査を有益なものとするには、調査の後に改善が見られたと児童生徒が実感できる取り組みが必要であるので検討していただきたい。また児童生徒の学力向上のための取り組みが各種行われており、一定の成果を挙げている。今後も市内の児童生徒が参加しやすい体制作りを進めていただきたい。なお、標準学力テストについては、偏差値による全国での相対的な位置づけにこだわる必要は無い。統計値の意味することを正確に読み取る必要がある。

「自らの命を守るための防災教育の推進」（12～13）

今後の災害発生時における安全・円滑な避難のために、学校の体制面と子どもの避難行動面の両面から取り組んでいることは高く評価できる。

「いじめを許さない学校作りの推進」（14～15）

問題として社会で取り上げられるいじめのケースには、学校が「いじめはない」という態度でいた結果が事態の悪化を招いていると考えられるケースが見られる。「いじめはある」という原則に基づき、学校支援と子ども支援の両面から引き続き取り組んでいただきたい。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」（16～17）

児童生徒の更なる意欲向上を図る事業と、適応に困難を抱える児童生徒を支援する事業との両面から取り組んでいることはまさに「一人一人を大切に」することであり、

今後も両面での支援を充実させていただきたい。

「健やかな体を培う体育・健康教育の充実」(18)

体育・健康教育の充実について、各校がそれぞれに取り組みを行っていることは評価できる。他方、事業の名称にある「結果分析」に関して、どのような取り組みがなされたのかが不明確であったように思われる。持久力の不足や肥満傾向といった表面的な数値への「対策」に留まることのないよう、体育・健康教育の充実に資する、より踏み込んだ分析の結果を周知いただきたい。

「生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】」(19～23) 及び「市民が行う生涯学習の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る」(24～26)

ややもするとマンネリ化してしまいがちなこれらの事業について、家庭教育学級における対象の拡大やブックスタート事業における新たな活動の計画など、内容の充実のために継続的な努力をされていることに敬意を表したい。他方、前(平成25)年度の課題を踏まえて立てられた今年度の方針がどのような形で具現化され、どのような成果をもたらしたかについて、報告書からは読み取れない点もあった。改善を期待したい。

「国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める」(27)

継続的な取り組みによって市の事業として定着し、長期的な成果も得られていることは高く評価できる。

「市民が行う文化活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る」(28)

平成27年度については、合併10周年記念事業と調整の上で、市民からの意見を踏まえつつ、さらなる内容の充実を図っていただきたい。

「文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する」(29～30)

貴重な文化遺産の保存・保護について、市民の文化財愛護意識の高揚を図るという視点も含めつつ、これまで同様に計画的かつ効率的に進めていただきたい。

「市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る」(31～32)

様々な大会・企画について、多くの方々が気軽に楽しく参加できるよう創意工夫がなされていることは高く評価できる。ただし、この事業に限ったことではないが、自己評価における「参加者の健康増進及び体力向上が図られた」とのような記述について、何を根拠にしているのかをできる限り明示いただきたい。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価（以下「点検・評価」と記載）を実施した。学識経験者のお二人の先生からいただいたご意見を踏まえて、今後の取組みを次のようにまとめた。

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」

35人学級編制のための任期付き市費負担教員、少人数指導教諭、補助教員及び補助員の配置による学校・学級への支援、学校再編による遠距離通学への対応としてのスクールバスの運行については、概ね事業の成果が得られているとの意見をいただいた。

今後も、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導と教育環境整備の充実に向けての事業を推進してまいりたい。

また、就学前教育については、平成27年4月に策定した「学府くりはら幼児教育構想」の具現化に向けた体制整備と充実に努めてまいりたい。

「学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」

市の教育拠点としての「教育研究センター」の開所やQ-U調査の実施、児童生徒を対象とした各種事業について、一定の評価をいただいた。

今後は、開所2年目となる教育研究センターの6つの拠点としての機能（研修の拠点、研究・調査の拠点など）を生かした運営に努めるとともに、長期休業中の学習会参加への交通手段の確保や市内の県立高等学校との合同合宿等、学習環境整備や学習機会の確保に努めてまいりたい。

「自らの命を守るための防災教育の推進」

災害発生時における安全・円滑な避難のため関係機関と連携した避難訓練の取り組みに評価をいただいた。

今後は、保育所・幼稚園から小学校、小学校から中学校へと円滑な接続を図るためにそれぞれが連携した防災教育を推進するとともに、県教委発行の防災副読本ほか防災教育資料の活用方法を検討してまいりたい。

また、本市の貴重な地域資源である、ジオパーク関連の資源を活用した防災教育の推進についても、教科や活動の様々な面において学習できる機会を検討してまいりたい。

「いじめを許さない学校作りの推進」

市及び学校においていじめ対策が進んだことに対しては、評価をいただいた。今後は、学識経験者の先生からの意見のとおり、どの学校にもいじめがあるとの認識のもと、「いじめに対して適切に対処する」ための体制、いじめの未然防止と早期発見

のため体制を検討してまいりたい。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」

児童生徒の意欲向上を図る事業と適応に困難を抱える児童生徒を支援する事業両面からの取り組みに対し、評価をいただいた。

今後も、児童・生徒一人一人を大切に教育の推進に向けて、特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、早期からの支援体制の確立、個別の教育支援計画、個別の指導計画をはじめとする合理的配慮に努め、柔軟できめ細やかな対応ができる一貫した支援体制の構築を進めてまいりたい。

「健やかな体を培う体育・健康教育の充実」

事業名称にある「結果分析」に関して、取り組み内容が不明確であるように思われるとの意見をいただいた。

今後は、調査結果の分析を行うとともに、分析結果を活用した取り組みを進め、体育・健康教育の充実を行ってまいりたい。

「生涯にわたり学習機会を提供し、自らの能力向上を図る【学びの連続性】」及び「市民が行う生涯学習の支援に努め、社会教育事業や施設整備の充実を図る」

家庭教育学級の対象拡大や各種事業の内容の充実に努力をしている点については評価をいただいたが、昨年度の課題が今年度にどのように活かされたかについて読み取れないとの意見をいただいた。

引き続き、「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の実現のため、必要な情報提供を行うとともに、各事業の評価・改善を図りながら地域の人材を活用した事業を実施してまいりたい。

「国際理解のための学習や事業を通じ、市民の国際感覚を高める」

市の事業として定着し、間接的・長期的な成果が得られているとの評価をいただいた。

今後も、海外派遣事業を通して、異文化理解や交流活動を推進し、国際的視野を持った人材の育成に努めてまいりたい。

「市民が行う文化活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る」

前年度の課題が今年度にどのように反映されたのかが読み取れないとの意見をいただいた。

引き続き、市民のニーズの把握に努め、優れた芸術の鑑賞機会を提供するとともに、芸術文化を自らが楽しみながら活動し続けられる環境の整備に努めてまいりたい。

「文化財の保存・継承に努めるとともに、活用を推進する」

文化遺産の保存・保護について、これまで同様計画的かつ効率的に進めてほしいとの意見をいただいた。今後は、歴史文化の継承支援・伝統芸能活動支援において、各団体の実情を把握し、「効果的な支援」を検討してまいりたい。

「市民が行うスポーツ活動の支援に努め、社会体育事業や施設整備の充実を図る」

市民が気軽に参加できる大会の企画に関して、高い評価をいただいた。

今後は、市民のニーズに応じて、気軽に健康づくりや体力づくりができるような工夫をするとともに、社会体育施設の利用状況を調査し、整備を図りながら、市民の健康増進に努めてまいりたい。

今回の「点検・評価」で選定した事業をはじめ、教育委員会で実施するすべての事業において、目的、効果、課題、改善策を常に意識しながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めたい。